

麻酔科（ペインクリニック）

1. 概要

2020年には他院からの赴任も他院へ異動もなかったが、当院研修医からの入局が1名あった。

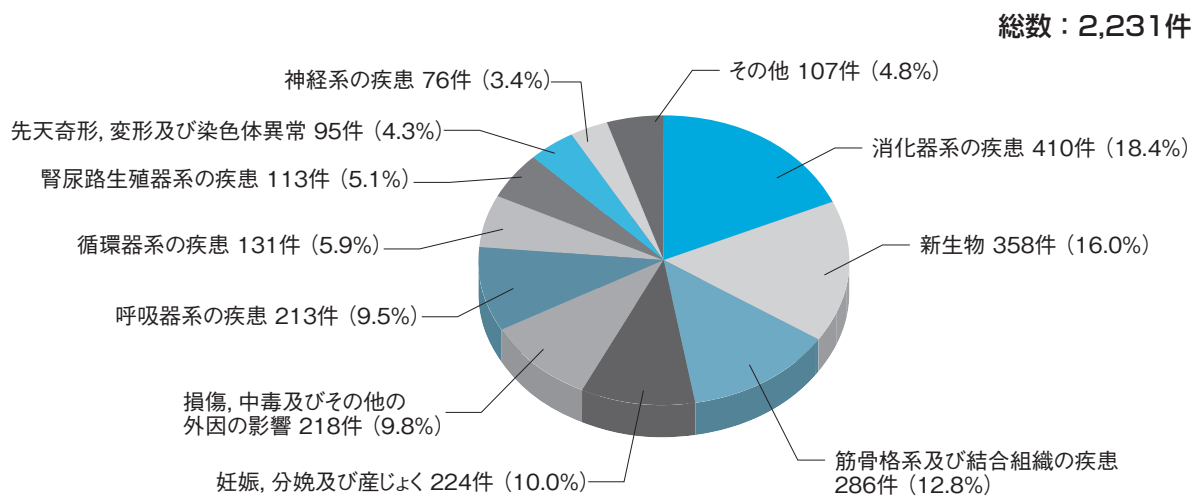
年間の総手術件数は7,641件であり、新型コロナウイルス感染症の影響により大きく減少した。全身麻酔件数は3,820件であった。麻酔科管理症例は2,882件であり、そのうち麻酔科管理の全身麻酔は2,662件であった。全麻件数は若干減ったが、高齢化に伴うハイリスク症例が増え続けており、麻酔難易度は大きく上がった。麻酔科管理の緊急症例は510件と大きく増えた。特に超緊急手術にはFull PPEでの対応が必要であり、担当麻酔科医の負担は非常に大きかった。

挿管困難対策機器や筋弛緩モニタを更新することで麻酔の安全性を高めることができた。新型コロナウイルス感染症対策による病院体制の度重なる変更により、手術室運営が非常に難しい1年であった。2021年には産休育休取得者が1名いるが、4月から当院研修医から1名と他院から医長1名が入局し、麻酔科麻酔の安全性がさらに高まる予定である。

（第一部長 寺本 友三）

2. 新規登録疾患

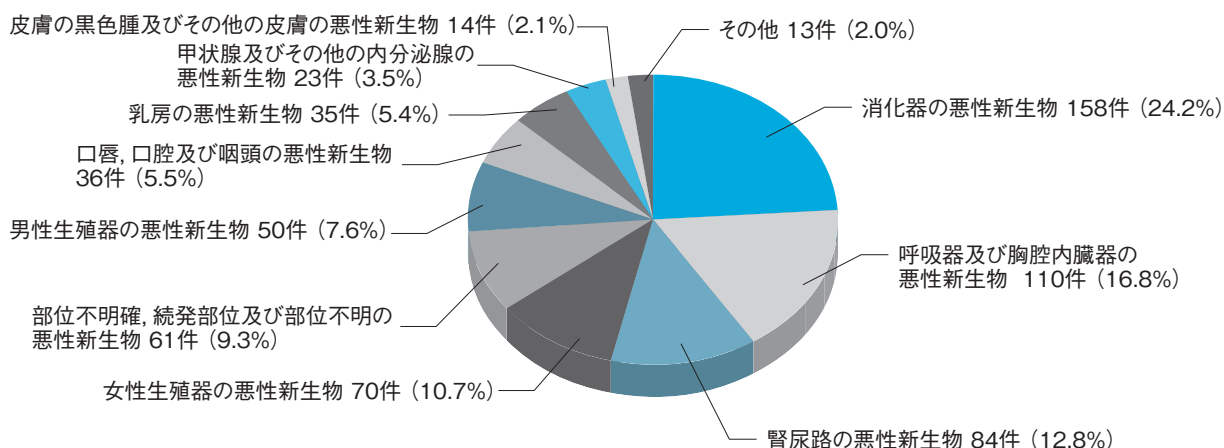
（1）悪性新生物以外



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
消化器系の疾患	口腔, 唾液腺及び顎の疾患	117	K00-K14
	ヘルニア	75	K40-K46
新生物	性状不詳又は不明の新生物	231	D37-D48
	良性新生物	127	D10-D36
筋骨格系及び結合組織の疾患	脊柱障害	134	M40-M54
	関節障害	127	M00-M25
妊娠、分娩及び産じょく	胎児及び羊膜腔に関連する母体ケア並びに予想される分娩の諸問題	137	O30-O48
	分娩の合併症	38	O60-O75
損傷, 中毒及びその他の外因の影響	頭部損傷	35	S00-S09
	腹部, 下背部, 腰椎及び骨盤部の損傷	34	S30-S39
呼吸器系の疾患	上気道のその他の疾患	157	J30-J39
	胸膜のその他の疾患	33	J90-J94
循環器系の疾患	脳血管疾患	71	I60-I69
	動脈, 細動脈及び毛細血管の疾患	33	I70-I79
腎尿路生殖器系の疾患	女性生殖器の非炎症性障害	70	N80-N98
	男性生殖器の疾患	16	N40-N51
先天奇形, 変形及び染色体異常	唇裂及び口蓋裂	30	Q35-Q37
	生殖器の先天奇形	19	Q50-Q56
神経系の疾患	挿間性及び発作性障害	45	G40-G47
	神経系のその他の障害	22	G90-G99

(2) 悪性新生物

総数：654件



疾患名	主となるICD10病名	件数(件)	ICD10
消化器の悪性新生物	直腸の悪性新生物	30	C20
	結腸の悪性新生物, S 状結腸	24	C187
呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物	気管支及び肺の悪性新生物, 上葉, 気管支又は肺	58	C341
	気管支及び肺の悪性新生物, 下葉, 気管支又は肺	33	C343
腎尿路の悪性新生物	腎盂を除く腎の悪性新生物	38	C64
	膀胱の悪性新生物, 膀胱, 部位不明	23	C679
女性生殖器の悪性新生物	子宮体部の悪性新生物, 子宮内膜	40	C541
	卵巣の悪性新生物	15	C56
部位不明確, 続発部位及び部位不明の悪性新生物	肝及び肝内胆管の続発性悪性新生物	14	C787
	リンパ節の続発性及び部位不明の悪性新生物, 頭部, 顔面及び頸部リンパ節	13	C770
男性生殖器の悪性新生物	前立腺の悪性新生物	50	C61
口唇, 口腔及び咽頭の悪性新生物	舌のその他及び部位不明の悪性新生物, 舌, 部位不明	5	C029
乳房の悪性新生物	乳房の悪性新生物, 乳房上外側 4 分の 1	13	C504
	乳房の悪性新生物, 乳房上内側 4 分の 1	11	C502
甲状腺及びその他の内分泌腺の悪性新生物	甲状腺の悪性新生物	22	C73
皮膚の黒色腫及びその他の皮膚の悪性新生物	皮膚のその他の悪性新生物, その他及び部位不明の顔面の皮膚	3	C443
	皮膚のその他の悪性新生物, 皮膚の悪性新生物, 部位不明	3	C449